

平成29年度金沢大学附属中学校自己評価表

学 校 目 標 自由闊達な気風の中で、広い視野と豊かな人間性を持ち、将来、社会的使命を果たす生徒を育成する。 (1) 自ら考え学ぶ生徒 (2) お互いに認め合い、助け合う生徒 (3) 心身ともにたくましい生徒				
本校の経営方針 (1) 金沢大学の方針、規則に沿った学校運営を行う。 (2) 学校教育学類、大学院教育学研究科・教職実践研究科や他の附属学校園との連携を密にして、附属学校としての任務の遂行にあたる。 (3) 生徒や教職員の自発性を尊重しながら、教育目標や目指す生徒像の具現化を図る。 (4) 金沢大学附属中学校のよき伝統を受け継ぎ、より良い校風の樹立と継承をめざす。				
評価項目	目 標	具 体 的 取 組	評価	次年度への主な課題
教 務	1. 総合的な学習の時間を系統立てて実施する。 2. 学校行事を効率よく運用する。 3. 教育課程の円滑な実施	・ E S D の視点で再構築した総合的な学習の時間を系統立てて実施する。	B	総合的な学習の時間の計画を精選し、円滑に実施する。
		・ 学校行事の年間計画をより効率よく運用する。	B	
		・ 学習指導要領に対応した教育課程を円滑に実施する。	A	
生徒指導	将来、たくましく生きるための社会性の基礎を養う。	・ 心の通じ合う挨拶ができるよう指導する。	A	学活、道徳等を活用し、生徒同士の関わりや思いやりに関わるの指導の強化を進める。 生徒自ら問題意識を持てるように委員会活動を活性化させる。
		・ 自ら生活規律（時間）を守ることができるよう指導する。	B	
		・ 清掃を進んで行えるように指導する。	B	
教育実習	1. 実習を通して学生に教師の自覚・責任の意識および実践的な指導力を育成する。 2. 大学院教職実践研究科の中学校における実習体制を整え、より充実した研究実践ができるようにする。	・ 教科の実習のみならず、学級経営や生徒指導など、様々な実習が行える計画、運営を行う。	A	個々の院生の活動や指導の状況が職員全体に見える手立てを検討する。
		・ 大学との連絡や確認を密にとり、実習に係る取り組みの理解、共有を図りながら、計画、運営を行う。	B	
研 究	伝統文化教育に関わって 1. 各教科等で学んだことを自分たちの現在や将来の行動につなげられる生徒を育てる。 2. 教科等横断的なカリキュラムの開発を目指す。 3. 伝統文化教育の推進と各教科等の思考力・判断力・表現力との関連性を明らかにする。	・ 各教科等の授業において、生徒が自ら発見し取り組む、または生徒が問題意識を持って進んで取り組めるような課題設定を目指す。	B	伝統文化教育のねらいやその成果について、学校・生徒・保護者が共有できることを目指す。
		・ 伝統文化教育を柱として、教科等横断的なカリキュラムの開発を目指し全教員が連携して取り組めるような研究のシステムをつくる。	A	
		・ 生徒、教員ともに適宜アンケートを実施し、伝統文化の持続・発展に関する意識や能力について評価をし、さらなる指導に役立てる。	B	

情報教育	1. 情報モラル教育の推進 2. 情報活用能力の育成	・生徒に情報の扱い方（情報の入手，発信方法）を理解させ，責任ある適切な利用を指導する。	B	情報を適切に扱おうとする態度が育成できるよう，指導方法の改善を行っていく。
		・総合的な学習の時間や各教科等を通して，情報を適切に収集，整理，活用，発信するために必要な能力と態度を指導する。	A	
保健安全	1. 自他の心身の健康に対し主体的に関わる生徒を育てる。 2. 自他の安全に配慮できる生徒を育てる。 3. よりよい環境を積極的に創る生徒を育てる。	・よりよい安全点検をめざし，生徒・教員が連携して取り組む。	A	生徒が自発的かつ積極的に清掃や環境整美に取り組めるよう，委員会と連携するなど取り組みの工夫や指導方法の改善を図る。
		・生徒の自発的な清掃をめざして，指導の工夫・改善をする。	B	
		・学習環境の整美について，自発的に取り組める生徒の育成を目指し，指導する。	B	
第1学年	1. 相手を認め，思いやりのある人間関係を築くことができる。 2. 基本的な生活習慣と学習習慣を確立できる。 3. 学校生活や集団生活のルールや公共のマナーを理解し，自ら考え，行動できる。	・授業や学年・学校行事を通して，相手の立場に立って言動する中で，一人一人が人間として成長できるように支援する。	B	授業や学年・学校行事を通して，相手の立場に立って言動できる生徒を育てる。
		・1日の学校生活の中で，常に時間を意識して行動させる。また，毎日，家庭学習をすることを意識させ，提出物の期限を守らせるように支援する。	B	
		・学校生活のルールや登下校時における公共のマナーをいろいろな場面で理解させる。また，一泊合宿を通して，集団生活のルールを守ることができるように支援する。	B	
第2学年	1. 個性を認め合う中で，自分と周囲を大切にできる生徒を育成する。 2. 適切に判断し行動ができる集団に近づくよう育成する。 3. 何事にも粘り強く，最後まで取り組む生徒を育成する。	・学級活動や学校行事等を通して自分の役割を果たす中で，お互いの違いを理解し合えるよう支援する。	A	生徒自ら考え，企画，運営する機会を多く設けることで，自ら考えて行動できる生徒を増やしていくことを目指す。
		・正しい判断や行動ができる生徒を中心に，自ら考えて行動ができる生徒が増えるよう支援する。	B	
		・学級活動や学校行事等において，目標を達成する成功体験を味わうことができるよう支援する。	A	
第3学年	1. 学ぶ目的を理解し，学んだことを生かす態度を育てる。 2. 積極的に各種活動に取り組み，責任感を持ってリーダーシップを発揮できるように支援する。 3. 多様な価値観を認め，各自が適切な進路を選択できるよう支援する。	・各教科等において，地域社会や日常生活に関連づける指導を行い，学ぶ目的や学んだことを生かす場を設定する。	A	
		・それぞれの生徒が力を発揮する場を設定し，自分の役割に対する責任感を自覚させ，協働して仕事を遂行できるよう支援する。	A	
		・自己や集団の肯定感の向上や成長につながるよう呼びかけを行うとともに，進路通信などの各種通信において，多様な価値観の中で適切な進路選択ができるよう，情報提供を行う。	A	

評価基準

A：達成されている

B：ほぼ達成されている

C：あまり達成されていない

D：達成されていない